

# 21名の部員紹介



3年 川崎長門 植物資源科学科



3年 野村杉仁 獣医学科



3年 小松愛子 食品経済学科



2年 榎晃太郎 植物資源科学科



2年 南保隆人 生産工学部・環境安全工学科



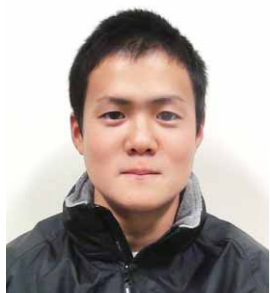
2年 木崎翔太 国際地域開発学科



2年 庄司開 食品ビジネス学科



2年 堀口和希 植物資源科学科



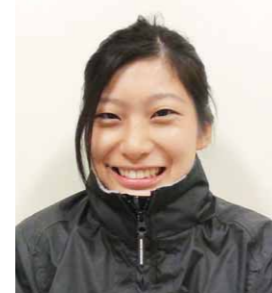
2年 申間宏充 獣医学科



2年 柿澤小夜子 動物資源科学科



2年 神林夏実 獣医学科



2年 初田理奈 商学部・経営学科



1年 折原冬弥 植物資源科学科



1年 千葉俊郎 動物資源科学科



1年 牧野寛汰 植物資源科学科



1年 山本裕貴 食品ビジネス学科



1年 細村勇哉 動物資源科学科



1年 辻脇志織 獣医学科



1年 佐々木愛 動物資源科学科



1年 森田薫子 短期大学部・生物資源科学科



3年 高樽優也 動物資源科学科

### 平成24年前期行事予定

**1月**  
14日  
六会ホースショー  
(日本大学馬術部会宿所)

**2月**  
11日~12日  
第32回スクーリングジャンプ&ドレッサージュ  
パートI  
(JRA馬事公苑)  
22日~23日  
2月ホーストライアル  
(JRA馬事公苑)

**3月**  
3日~4日  
第43回関東学生馬術新人戦・OB戦  
(JRA馬事公苑)  
未定  
第55回三獣医馬術大会  
(東京競馬場)  
10日~11日  
第32回スクーリングジャンプ&ドレッサージュ  
パートII  
(JRA馬事公苑)  
17日~18日  
3月ホーストライアル  
(JRA馬事公苑)  
23日~25日  
第65回関東学生春季馬術大会パートI  
日立明馬術競技大会  
(JRA馬事公苑)  
25日  
卒業式

**4月**  
7日~8日  
JRA馬場馬術大会  
(JRA馬事公苑)  
8日  
入学式  
13日~15日  
第49回関東学生春季大会パートII  
東都学生馬術競技大会  
(JRA馬事公苑)  
25日~26日  
4月ホーストライアル  
(JRA馬事公苑)

**5月**  
3日~4日  
JRAホースショー  
(JRA馬事公苑)  
19日~20日  
第65回国民体育大会・第39回東京都馬術大会  
(JRA馬事公苑)  
25日~27日  
第33回全日本ヤング総合馬術大会  
(JRA馬事公苑)

**6月**  
未定  
第82回関東学生馬術争覇戦  
(JRA馬事公苑)  
21日~24日  
第47回関東学生馬術三大大会  
(JRA馬事公苑)

### 合宿所・馬場

〒252-0813  
神奈川県藤沢市亀井野840  
TEL:0466-81-0288  
FAX:0466-81-8885  
e-mail  
nuet@msj.biglobe.ne.jp  
web  
http://www.nu-equestrian.com

皆様応援よろしくお願いします。

日大馬術部 ブログ  
「むっちゃん」をご存じですか?  
大人気「むっちゃん」は日々更新中。六会の楽しい出来事がわかりますよ。ぜひご覧になって下さい!!  
試合動画配信中!  
facebook はじめました!  
(編集担当) 梶塚 春華、川崎 長門

# Nihon Univ. Equestrian Team

## Vol.14 2012. Winter



### この勝利の意義。 監督 諸岡 慶

今年度の全日本学生三大馬術大会、三木ホースランドパークでの初の全日本学生開催とアウェーの地に不安もありましたが、夏からの合宿や競技会等で馴致をこなしており、関東のチャンピオンとして勝負出来る状態は整ったと、心のどこかで自信を持っていたのは事実です。と同時に嫌な予感の部分も頭から消えなかったのです。それは言葉以上のものがありました。

まず2回走行においては、結果としては団体2位、個人では、伊藤と桜が2位、上原と桜飛が4位入賞でした。1

走行目から1落差か、タイム差か、一進一退のせめぎ合い、関大とどちらのプライドが上に行くのか、そんな緊張感の中で戦っていました。馬の体調面の厳しさもありましたが、良く4年生がチームを牽引し、良い走行をしてくれました。結果は今の実力がそのまま出たと思います。馬場は自由演技で天谷と桜橋が逆転で個人優勝、上原と桜絆も6人抜いて4位と、今年に入り、馬場の練習を一つ一つこなしてきた成果が大きく表れたように思えました。最後の総合は問題なく・・・と思いましたが、最終日にまさかがあり、小野と桜勝に続いて梅田と桜達までもが失権と、この時点で団体が組めない状況となり、私の悪い予感的中は本物となってしまいました。個人出場の伊藤が出場馬唯一のタイムインで減点0、上原もタイム減点のみの走行で奮起、踏みとどまれるかと思いきや、鳥谷部と桜羅までもが人馬転で失権と、予想も出来なかった状況となりました。最終の余力では伊藤と桜準、上原と桜鶴の優勝を掛けた勝負はお互いの力を見せつけ個人はワンツーフィニッシュとなり、日大の強さを見せることは出来たと思います。総合の団体は5位、三種目総合団体は悲願である18年ぶりとなる優

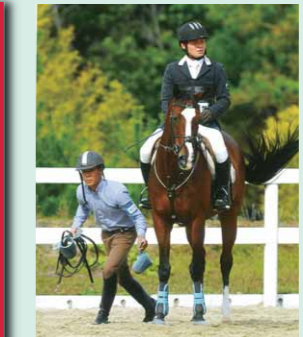
勝を果たしました。それぞれが様々な想いを抱え一つの結果を出したように見えたが、しかし、内容を振り返れば誰もが喜ばない、満足のいくものではありません。それを出場した選手達とそれを見ていた部員全員が一番実感している事だろうと思えますが、その結果は私の責任です。私は、全日本学生が終わった瞬間から勝利の余韻に浸る暇もなく、すでに来年を見据えていました。主力であった4年生が抜けた穴を埋められる者が果たしているのか、更にレギュラー馬達の高齢化も進んでおり、その采配に頭を悩ませる所でもあります。とはいえこの輝かしい結果は、2年からレギュラーとして期待をかけている高樽を中心とする次の世代の学生たちに勇気を与え、奮起させる事になったのではないのでしょうか。

悲願の三種目総合団体優勝を果たし、世代交代をする今、我々はもう一度原点に戻り、勝利に驕る事無く自分自身を見つめ直す時なのではないでしょうか。

そして追われる立場という自覚を持ち、来年の競技会シーズンに目を向けて行きたいと思っておりますので、皆様、来年も応援の程よろしくお願い致します。

## 18年振り 三種目総合優勝 までの道のり

### —全日本学生馬術三大大会—



今年の全日本学生馬術三大大会は、兵庫県三木市三木ホースランドパークで行われた。本学は馬場個人、総合個人を勝ち取り、18年ぶりに全日本学生馬術三大大会三種目総合優勝を成し遂げた。これに至るまでには数々のドラマがあった。

「今年こそは完全優勝を果たす!」という主将伊藤の掛け声とともに、我々の戦いの火ぶたが切られて落とされた。

全日本学生馬術三大大会はその名のとおり学生賞典障害飛越競技、学生賞典馬場馬術競技、学生賞典総合馬術競技の三種目によって全国の学生馬術部が全力で望む試合である。今回の全日本学生は11月2日~3日に学生賞典障害飛

越競技、4日~5日に学生賞典馬場馬術競技そして5日~6日にかけて学生賞典総合馬術競技、計5日間かけて行われた。今回の試合での鍵男(キーマン)となるのが4年の主将伊藤と上原だ、この二人は唯一三種目全てに競技に出場した。1種目の学生賞典障害飛越競技には主将伊藤と桜橋を先頭に2年柿澤と桜準、3年高樽と桜春、4年鳥谷部と桜俊、そして4年上原と桜飛の5人馬でチームを結成した。初日1走行目の団体成績は減点8、2日目の2走行目では、3位に付いていた関西大学が怒涛の追い上げを見せた。その結果、2日目の団体総減点は20点となり、団体成績2位という結果で最初の競技を終えた。

大会3日目の学生賞典馬場馬術競技は、上原と桜絆を先頭に3年川崎と桜士、主将伊藤とインテレット、そして4年天谷と桜橋の4人馬でチームを結成した。この競技においては1日目の規定演技上位10名が決勝戦の自由演技に進む事ができる。その結果、天谷と桜橋が2位、続いて上原と桜絆が9位となり決勝戦進出へ駒を進めた。2日目の決勝戦では激戦の末、天谷と桜橋が優勝、続いて上原と桜絆が4位となり、本学は9年ぶりに個人優勝を果たした。

最終競技となる学生賞典総合馬術競技は、三種目の中で

野と桜勝を先頭に主将伊藤と桜準、梅田と桜達、上原と桜鶴、そして鳥谷部と桜羅の5人馬で最終競技に望んだ。1日目の調教審査では、上原と桜鶴が最高点率 66.15%を出してトップに立ち、続いて伊藤と桜準が2位に入り2日目を向かえることとなった。「このままだらば勝てる!」誰もが思ったであろう。大会6日目の最終日、そこでは誰もが予想もしていない出来事が起きた。耐久審査で小野と桜勝、梅田と桜達、そして鳥谷部と桜羅までもがまさかの人馬転により、計3人馬の失権となってしまった。伊藤と桜準が唯一タイムインを果たすものの、上原と桜鶴は惜しくもタイムオーバーにより減点6となってしまった。この時点で伊藤と桜準、上原と桜鶴に我々の三種目総合優勝の運命がかかった。ここまでの総合順位が伊藤と桜準が1位、続いて2位に上原と桜鶴、その差は22点。最終の余力審査が始まった。伊藤と桜準、上原と桜鶴のどちらの人馬が勝ってもおかしくなかった。伊藤と桜準が1落下減点4を出してしまうと上原と桜鶴の優勝、伊藤と桜準が減点0なら伊藤と桜準の優勝となる。最後の余力審査の末、優勝を果たしたのは上原と桜鶴だった。伊藤と桜準は惜しくも1落下減点4個人成績2位となった。「いつもと違う環境での試合がこんなにも過酷なものなのか...」誰もが思ったであろう。激戦の末、本学が18年ぶりに「三種目総合優勝」を果たした。こうして涙あり、喜びあり、感動ありの中、私たちの全日本学生馬術三大大会は幕を閉じたのであった。



最終競技となる学生賞典総合馬術競技は、三種目の中で日本大学馬術部が最も力を注いでいる競技である。4年小



## 全日本学生賞典馬場馬術競技 17位

3年 川崎長門 [桜士]

初の全日本学生馬術三大会出場、振り返ればすごく緊張していたと思います。全日本学生はその名のとおり全国の学生が集まる試合で、年に1度しかありません。僕がこの日本大学に入学し馬術部員としてこれまでに3回の全日本学生を見てきました。1年生の時の全日本、2年生の全日本そして3年で初出場、全日本に出場が決まった時は本当に嬉しかったです。また、プレッシャーも大きく感じました。僕は馬場馬術競技の個人として桜士号で出場させて頂きました。結果は17位という結果で本当に悔しい思いをしたのを今でも忘れられません。自分にはいったい何が足りないのだろう。その時「メンタルが弱い！」と感じました。馬は人のいう事を聞いて動いてくれます。その指示を出す人がしっかりしないと馬との調和がとれず良いパフォーマンスは出来ないのだとつくづく思いました。この始めて全日本学生を桜士号と出場した経験を良い教訓として残りの1年間で頑張っていきたいと思えます。



# 全日本学生馬術三大会レポート



## 全日本学生賞典総合馬術競技 優勝 4年 上原佑紀 [桜鶴]

最後の全日本で3種目総合優勝、総合馬術競技個人優勝という成績をとらせていただいて、心から日本大学馬術部に入部できた事を誇りに思います。

桜鶴は今年出場した試合全てで優勝していたので全日本学生も自信を持って臨むことができました。大変プレッシャーがかかる中での試合でしたが、桜鶴も僕の気持ちに答えてくれるかのようにいつも以上のパフォーマンスを見せてくれたので、楽しんで走行できました。

最終障害を通過して優勝が決した瞬間はこれまでの4年間の思い出が走馬灯のように頭の中で駆け巡り自然と涙があふれ出ていました。18年ぶりに我が大学が日本一になったのは、日本一の監督、コーチ、部員、馬達がそろっているからにほかなりません。後輩たちには王者の誇りを胸に、全日本連勝記録を樹立してもらいたいです。僕も今後はOBとしてバックアップして行きたいと思えます最後に周りで支えてくださった人たちに感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

## 日本大学馬術部が誇る名馬たち

### 桜鶴号

品種: アングロアラブ / 生産地: フランス / 15歳

今年、全日本総合馬術大会・全日本学生馬術三大会を含め五連勝、負けなしの総合のスペシャリストです。特徴はのんびり屋でとても人なつこくぼっちょりした体形で、『オム』と呼ばれています。そんな日大のエース的存在のオムは、全日本学生の総合部門で圧巻のパフォーマンスで会場を魅了してくれました。来年もその感動を見せてくれることを期待しています。

2年 木崎翔太



### 桜橋号

品種: SHBGB / 生産地: イギリス / 17歳

六会イチの食いしん坊！といっても過言ではない桜橋。お腹を空かせていつも鳴いていて、餌を食べる速さは天下一品！！そんな彼は皆から(リンゴ)と呼ばれています。人懐っこくとても愛嬌のある桜橋は、案外怖がりな一面も持っているんです。彼の得意分野は馬場馬術競技、日大の馬場馬といったら桜橋というほどの活躍ぶりです。今後も優勝目指して頑張ってくれることでしょう。

2年 初田理奈



## 全日本学生賞典障害飛越競技 2位

4年 伊藤昌展 [桜珀]



僕は何の為に主将で、何のためにレギュラーをやらしてもらって、何のために馬術部に入ったのだろう。全日本学生が近づくにつれてそう考えるようになりました。試合に出るため？それとも馬がただ好きだから？色々考えましたが、それは部員全員で全日本学生を勝つためだと気付きました。個人優勝はもちろんですが、私は三種目団体優勝が欲しかった。主将である以上、それも同じくらいうれしい事だったからです。

その思いに答えてくれた馬こそ桜珀です。正に人馬一体になれたような走行ができました。1走目の1落下は本当に悔しかったですが、2日間を通して僕のベストに近い事をやってのけたと思います。僕の忘れられない愛馬になりました。

ありがとう部員みんな。ありがとう六会の馬たち。ありがとう桜珀。監督をはじめコーチの方々本当にありがとうございました。日本大学最高。

## 全日本学生賞典障害飛越競技 25位

3年 高樽優也 [桜春]

桜春とコンビを組んで2年が経ちました。このコンビで2回目となった全日本学生。今年に入って桜春の癖や特徴をつかみ、全日本学生でも自分がしっかり乗る事が出来ればよい結果が出せると思い調整にも熱が入りました。

全日本学生当日、1走行目はチームに貢献できず減点12。足を引っ張る結果を出してしまいました。何度もビデオでミスした場所や全体の流れを見て失敗した所はしっかり修正し、2走行目は必ず減点0で帰ってくると自分に言い聞かせて気持ちを切り替えて臨んだ2走行目...減点12でした。結果は先輩たちの活躍により団体2位を取ることができました。その時今の4年生のようになりたいと思いました。来年は最上級生として後輩たちを引っ張っていける存在でなくてはいけなく強く感じました。これからは、今の4年生を超えるために自分にもっと厳しく馬のことや部員の事をしっかり支えていける4年生になりたいと思います。

## 全日本学生賞典馬場術競技 優勝

4年 天谷幸枝 [桜橋]

「桜橋」と臨んだ最後の全日本学生。私は、最後の全日本学生ということで、今年は絶対に優勝するという強い気持ちで試合に臨んだ。

初日の規定演技では、今までで一番のびのびとした演技をすることができた。しかし、細かいミスがあり、予選2位通過となった。

決勝の自由演技では、普段あまり失敗をしないようなところでミスをしてしまった。

私は「優勝は難しい」と思い、最後の選手の演技が終わるのをみていた。そして、待機馬場で放送を聴いていると、「わあ〜」という歓声とともに会場から大きな拍手が聞こえた。

その瞬間、一気に力が抜け、涙が止まらなかった。本当に嬉しくて、4年間頑張ってきて良かったと思えた。

最後の全日本学生で優勝ができ、今まで応援してくださった方々の期待にこたえることができ本当に良かったです。

諸岡監督を始め、コーチ、関係者の皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。この場をお借りしてお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。



## アナザーヒーロー

2年 庄司 開

今回このような形で皆様に挨拶出来ることを嬉しく思います。自分は現在二年生で、今回行われた全日本学生馬術三大会では、桜俊という障害馬と桜羅という総合馬の馬付きをやらせて頂きました。大会を間近で見て、部員が一丸となって勝ち取った三種目総合優勝は私たちにとって感動そして先輩たちの偉大さを実感させてくれました。

来年は三年生という一つ上の立場になります。自分はまだまだ未熟ですが、今まで四年生に教わったことは自分の身になり、色々な面で助けてもらいました。その経験をいかし後輩の指導、先輩たちのサポートをして来年も部に貢献していきたいと思えます。来年はレギュラーを勝ち取り、大学馬術界のトップである本学を引っ張っていく存在になりたいです。



Another Hero